

一月一日

罪の重荷

すべての重荷と、すぐに絡み^{から}ついてくる罪を捨て去り、忍耐深く、私たちの前に置かれている競走を走り続けましょう。

ヘブル人への手紙 一二章一節

マラソンを走るランナーは、なるべく軽い服を着、軽いシューズを履^はきます。それは、重い物を身に付けていると、すぐに疲れて走れなくなるからです。

私たちは、キリストを信じる前には、不信者としての生活をしていました。しかしクリスチャンとなった今、天を目指して歩んでいます。

キリストを信じた私たちは、神の子どもとされ、天に国籍を持つ者とされました。そして天に至る道を歩む者とされたのです。

その道を歩むためには、それにふさわしいスタイルが必要ですが、クリスチャンの中には、不信者の時の生活スタイルを持ったまま、この道を歩もうとする人がいます。その人にとって、そのスタイルが徐々に重荷となってきました。その不信者のスタイルでは天への道を歩むことができないのです。クリスチャンに歩むべき道を歩ませない、絡み^{から}つく罪の重荷は、捨てる以外にないのです。



一月二日

立場が要求する代価

他人をいつも教えていながら、なぜ自分自身を教えないのですか。盗むなど教えているあなたが、盗んでいるではないですか。姦淫かんいんするなど説いているあなたが、姦淫かんいんを犯してもいいのですか。偶像を忌み嫌っているあなたが、宮荒らしをしているではありませんか。律法を誇はすかしっているあなたが、律法を犯して神を辱はすかしめているではないですか。それは、「あなたがたのゆえに、神の御名が異邦人の間で汚きたされている」と記されているとおりです。

ローマ人への手紙 二章二一〜二四節

キリストの御名を告白し、キリストを証する者が、口の告白と一貫性を欠いた生活をしているなら、他の誰よりもキリストのお働きに悪影響を与えます。一貫性を欠いた生活が、神の教えと神のことばとにそしりを与えるということに、よく注意しなければなりません。

特に、神のことばを宣べ伝える立場にある者は、その立場が要求する代価を支払わなければなりません。あらゆる形の不道德から離れ、主の御名と主の御わざがそしられることのないようにするべきです。



一月三日

耳当たりのよい話

実に、人々が健全な教えに耐えられず、自分の欲望に従って、耳当たりの良い話をしてもらうために自分自身で教師たちを寄せ集めるような時が来ようとしているからです。その時になると、人々は真理から耳を背け、（人間の都合に合わせた）作り話に向かって（真理の）道から外れてしまいます。

テモテへの手紙第二 四章三、四節

地獄を語ると求道者がつまづくので語らないと言う牧師が多くなっています。それは、とりもなおさず、罪に対する神の怒りを語らないと

言うことです。

すなわち、神は今、この世に対して怒りを持っておられず、ただ愛を持っておられるという非常に誤った考えに基づいています。このメッセージの中には神の絶対的主権の主張もなく、従ってその神の主権に反対する人間の反抗に対する警告、その罪に対する神の怒り、すなわち人間に対する永遠の火の中の刑罰についての警告もなく、またこの地獄からの救い主である主イエス・キリストの十字架の死もなく、もちろん復活もありません。すなわち、偽の福音の中にはキリストの十字架は不必要なのです。

一月四日

からだなる教会

教会とは、キリストのからだであり、すべてのことを完全に成就することのできる御方が成就されたものです。

エペソ人への手紙 一章二三節

キリストのからだである教会は、今の時代にどのようなことでも実現することのおできになるキリストによって実現された（成就された）、今の時代のための奥義であるのです。

神が天地創造の以前からみこころの中で決断され、決定しておられたご計画を実現するために、教会の実現以前の幾つかの時代を通してな

された神の準備が完了したので、いよいよ実現が可能となったのです。

キリストのからだである教会とは、聖霊によって、この地上にいるすべての真の信者を材料として形成されている、この地上にある霊的団体です。そのかしらは天にいますキリストです。キリストが、ご自分の地上にあるからだである教会を使って、今もこの地上で救霊の働きを続けておられるのです。私たちはこのからだにあって、かしらであるキリストによって動かされ、また成長させられるのです。



一月五日

不信者の協力への警戒

このことを彼女は何日間も続けた。それでパウロは憤慨ふんがいして振り返り、その霊に向かって「イエス・キリストの御名によって命じる。その女から出て行け」と言った。すると同時に、その霊は出て行った。

使徒の働き 一六章一八節

この占い女には複数の所有者がいました。多分、占いができるというのでこの女奴隷の値段が高かったのでしょう。それで、一人では買えないので、数人で共同出資して買ったのでしょう。それで、占いの利益は、出資者に分配して

いたのでしょうか。

もしパウロがこの女に語らせ続けたために、その町のだれかがそれを聞いてパウロのところに来て福音を聞いたとしましょう。もしそうになると、パウロは悪霊の協力を受けたことになりません。そうになると、ピリピのクリスチャンは悪霊に対して戦えなくなります。悪霊が福音伝道の手助けをするはずがないのです。これは悪霊のわなに違いがないのです。

私たちは不信者の協力を絶対に受けるべきではありません。サタンの策略を知り抜いているパウロは、悪霊にその女から出ることを命じました。

一月六日

柄と斧の頭

エリシャは一本の枝を切ってそこに投げ込み、斧の頭を浮かべた。

第二列王記 六章六節

木の柄はキリストの型であり、斧の頭は私たちの型です。柄と斧の頭がしっかりと結び付いていない状態は、自分がキリストと一体とされている霊的事実を知らないクリスチャンとよく似ています。その人は、自分がまだアダムの子孫であると思込んでいます。自分は、アダムの子孫であるのだから、今までの生き方で生きるしか仕方がないではないか、と思っっています。

その人は、キリストの力によって生きることができるということを知らないのです。

しかし、キリストを信じた者は、信じた瞬間から、アダムから解放され、キリストと一体とされ、キリストからいただいた新しいのちによって生きる者にされています。キリストが私たちに求めておられることは、私たちの日々の歩みにおいて、新しいのちによって歩むことを、キリストが助けてくださると信じることです。



一月七日

先駆^{さきが}け

そこに、メルキゼデクの地位に従って永遠に大祭司となられたイエスが、私たちのために、先^{さきが}駆^がけとして入られたのです。

へブル人への手紙 六章二〇節

キリストは「聖める方」として、「聖められる者たち」（へブル二…一一）と一体になられ、十字架の上で罪のために死に、よみがえり、今、天の真の聖所の中におられるのです。そしてキリストは、私たちのいのちとして天におられ、私たちの立場を確保しておられます。

そして、やがて「あなたがたのいのちである

キリストが現れてくださる時、その時、あなたがたもキリストと共に栄光の中に（必ず）現れます」（コロサイ三…四）というみことばが実現されるのです。

キリストは、信じるすべての者のための、永遠の大祭司となりました。そして、私たちの先^{さきが}駆^がけとして今、天におられるのです。キリストは、信じる私たちの救いの保証として、さらに、日々私たちを守り導いてくださり、私たちを天にまで確実に導き守り通すことができます。大牧者として働き続けておられるのです。

一月八日

どこにあるのか

彼らは、「彼（キリスト）の再臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠って「死んで」から、すべてのものは創造の初めのままではないか」と言っています。

ペテロの手紙第二 三章四節

使徒ペテロは、終わりの日には、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、キリストの空中再臨を否定すると警告しています。そして、今まさにそのような時代なのです。しかし、そのような中であっても、真の信者は再臨を待ち望み、自らを聖く

すると聖書は語っています。

「キリストが現れてくださったなら、私たちはキリストと同じ姿に変えられることを知っています。また、その時、私たちがキリストのありのままの御姿を見ることも知っています。実に、すべてキリストについてこの望みを持っている者は、あの方が聖であられるように、自分自身を聖くし続けます。」（1ヨハネ三：二、三）

どうか私たちのすべてが、すぐにでもキリストの再臨があり得ると信じ、その望みに従って歩み、その望みに基づいた日々を過ごす者でありますように。

一月九日

覚えていなさい

お互いに偽りを言っではいけません。あなたがたは、古い人をその行いとともにへ一度限りの自らの決断として、脱ぎ捨てて、新しい人を、――実に、その新しい人を造られた造り主ご自身の姿に従って、知識（の量）に基づいてますます新たにされて行く新しい人を――、あなたがたは着たのです。

コロサイ人への手紙 三章九、一〇節

キリストを信じたとき、私たちに与えられた新しい人、すなわち新しいのちと、それが持っている新しい性質は、私たちがキリストを知

る知識が増すに従って、成長させられ、日々、新たにされていきます。私たちは、すばらしいのちを神からいただいたのです。

この節が語っていることは、「あなたがたは、古い生活様式を、その倫理観、道徳観もろとも、自分の決断で捨て去ってしまい、キリストから新しいのちをいただいたのだから、その時、新しい生活様式を、新しい道徳観、倫理観とともに自分自身の決断で受け入れたということを、覚えていなさい」ということです。このことを忘れ、あるいは無視することが、自分自身を偽り、他人に「偽り」を言うことなのです。



一月十日

わたしの喜び

わたしは今、御もとにまいります。わたしが今、世にいる間にこれらのことを語っているのは、彼らが、わたしの喜びを、彼らの心の中で満ちたものとして持ち続けるためです。

ヨハネの福音書 一七章一三節

この聖句の中の「わたしの喜び」とは、「わたしの喜びと呼ばれ得る種類の喜び」を意味しています。

主イエスは、弟子たちに、また私たちに、与えられている救いの喜び、主との交わりの喜び、主に従う喜びが、常に満たされた状態であり続

けるようにと、御父の御前で祈っておられるのです。その祈りに応えて、御父は、聖霊を通して、私たちの心に働きかけておられるのです。

「満ち満ちたものとして持ち続けるように」の意味は、「それは十分に満たされた。そして現在もその状態であり続けている。これからもそのようであるように」です。ですから、もし私たちが、そのような喜びを常に持ちたいと願うならば、必ずその願いは実現されるのです。

